

岡山県環境保健センター調査研究計画書

番号	H30-03	課題名	児島湖の汚濁負荷に関する調査研究					
期間	2019～2021年度	担当部科室	環境科学部	水質科				
課題設定の背景	<p>1 政策上の位置付け 「新晴れの国おかやま生き生きプラン」に掲げる重点戦略Ⅲ「安心して豊かさが実感できる地域の創造」のうち「快適な生活環境保全プログラム」の重点施策である「水、大気、土壌などの保全対策の推進」及び「自然や優れた景観を保全し活用する取組の推進」に資するものである。</p> <p>2 県民や社会のニーズの状況 児島湖の水質は、児島湖に係る湖沼水質保全計画（以下「湖沼計画」という。）に基づく各種施策により緩やかな改善傾向にあるが、未だ環境基準を達成しておらず、引き続き水質改善に取り組む必要がある。 また、岡山県全域に目を向けると、発生源対策等による水質の改善が見られる一方、県内の多くの河川や用水路はコンクリート護岸に囲まれ、生物の多様性が失われており、多くの生物が棲息でき、水辺に親しめる水環境の創造・修復が求められている。</p> <p>3 県が直接取り組む理由 湖沼計画を策定し、各機関と連携して水質環境基準の達成に向けた種々の対策を講じることが県の責務である。</p> <p>4 事業の緊要性 湖沼計画において、水質汚濁メカニズムの解明、流出水対策地区における流出水対策、水生生物の有効活用等に係る研究の推進を掲げている。</p>							
	調査研究の概要	<p>1 目標 児島湖の流入河川のうち、倉敷川では汚濁負荷量の削減に比べて水質の改善が低調なため、倉敷川の中で汚濁負荷が高い中・下流域で汚濁負荷の状況を詳細に調査し、発生源ごとの影響の度合いを評価する。このほか、流出水対策地区の汚濁負荷量調査や水生生物による水質等への影響調査を実施し、児島湖の水質保全に資する調査研究等を推進とする。</p> <p>2 実施内容 ・倉敷川流域における汚濁負荷状況の詳細調査（継続） ・流出水対策地区における汚濁負荷量調査（継続） ・水生植物による水質等への影響調査（新規）</p> <p>3 技術の新規性・独創性 児島湖におけるブロック別の汚濁負荷量の推算是行われているが、影響が大きい倉敷川中・下流域の小河川や用排水路ごとの評価は行われていない。 水生植物は懸濁物の沈降など水質浄化の効果があり、魚類などの棲息の場にもなっているが、県内の汚濁負荷が大きい水域において、水生植物が存在することによりどの程度の効果があるのか調査は行われていない。</p> <p>4 実現可能性・難易度 実現可能性：有、難易度：中</p> <p>5 実施体制 2名</p>						
		成果の活用・発展性	<p>1 活用可能性 倉敷川流域における汚濁負荷状況の詳細調査の結果を活用し、L字型肥料への転換促進等の水質改善施策の検討資料とする。</p> <p>2 普及方策 年報掲載、学会発表等</p> <p>3 成果の発展可能性 水生植物による水質等への影響調査により得られた結果を市民参加による環境学習や環境保全推進のための啓発活動、さらにはシミュレーション等による児島湖での影響の評価に活用できる可能性がある。</p>					
			実施計画	実施内容	年度	2019	2020	2021
(倉敷川中・下流域の詳細調査) (流出水対策地区の負荷量調査) (水生植物の影響調査)				計画事業費	366	366	366	1,098
		一般財源		366	366	366	1,098	
	外部資金等	0		0	0	0		
人件費(常勤職員)	4,000	4,000		4,000	12,000			
総事業コスト	4,366	4,366		4,366	13,098			
(単位：千円)								